

ウイルス研究 詳細に

佐野名誉教授の功績紹介

弘大資料館

弘前

弘前大学資料館で、企画展「ウイルス研究の黎明

期から現在まで」が30日まで開かれている。リングにも被害を及ぼす、ウイルスよりも小さい最小の植物病原体である



ウイルスを長年研究し、大きな功績を残した同大の佐野輝男名誉教授の研究を紹介している。ウイルスは1971年に1971年

にアメリカで初めて見つかった比較的新しい病原体。佐野名誉教授は、北海道大学で農業生物学を学び、以来40年にわたって研究を続けた。2020年には、日本の学術賞として最も権威ある日本学士院賞を受賞した。

企画展では、ウイルスについての説明や、ウイルスによるリンゴゆず果病などの病害例、佐野名誉教授の生物学的・生態学的研究、診断・防除法の開発やその方法などについて紹介。佐野名誉教授は今後について「ウイルスは細胞生物が誕生する以前に存在たとされるRNAワールドの生きた化石とも考えられている。生物の起源に関する知的好奇心を刺激するような情報が出てくると面白い」とメッセージを贈っている。

資料館は学外者も入館可。時間は午前10時～午後4時(入館は午後3時半まで)。日曜休館。

(西尾瑛)

※この記事は陸奥新報社の提供です。

[問い合わせ先] 弘前大学資料館

jm3432@hirosaki-u.ac.jp

この画像は、当該ページに限って陸奥新報の記事利用を許諾したものです。転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。